

物流クライシスを 読み解く

申込
不要

一般、学生、教職員対象



日時

2019年6月28日(金) 18:30~21:00



会場

立教大学池袋キャンパス
太刀川記念館カンファレンス・ルーム

2017年の始め頃から宅配業者最大手のヤマト運輸による荷物の総量抑制の意向、全社的な未払い残業の露見、宅急便値上げ方針表明と続いたことをきっかけに、「宅配危機」「物流クライシス」等と表現される一連の問題に大きな社会的関心が寄せられている。ここで注目すべきは、ふだん私達がその利便を享受してきた宅配業界の危機のみにとどまらず、物流の大半を担うトラック業界が長年かかえてきた構造的な困難である。

この公開講演会では物流に関わる3人の研究者、専門家を招聘して、私たちの日々の消費生活や生産活動を影で支える物流の概況と諸課題、トラック業界の現状と諸問題、そして関連する政策の動向などを論じ、宅配の危機を招いたトラック運転手の不足・低所得等の労働問題の背後に存在する大きな問題に目を向ける。そして、構造的な問題の改善に向けて必要なことは何であるかを考えていく。



講師

齊藤実氏

(神奈川県立経済学部教授)

法政大学社会科学部研究科博士後期課程単位取得。博士(経済学)。日通総合研究所で物流、交通に関する国内・国外の調査プロジェクトに従事し、神奈川県立経済学部助教授を経て現職。専門は物流、交通論。

梶野龍二氏

(全日本トラック協会理事長)

東京大学法学部卒業。1977年旧運輸省入省。運輸大臣秘書官、自動車交通局貨物課長、大臣官房総括審議官、海上保安庁次長、国土交通審議官などを経て、2017年より現職。



谷口礼史氏

(国土交通省自動車局
総務課企画室長)

東京大学法学部卒業。1996年旧運輸省入省。同省及び国土交通省の本省の他、国の出先機関(内閣府沖縄総合事務局)、自治体(大分県庁)、民間企業(官民交流:東京海上日動火災保険(株)及び東京海上日動リスクコンサルティング(株))で勤務。2016年より現職。



司会

首藤若菜氏

(立教大学経済学部教授・
社会福祉研究所所員)

専門は労働経済学。『物流危機は終わらない』の著者。『グローバル化のなかの労使関係:自動車産業の国際的再編への戦略』で、社会政策学会「第24回社会政策学会奨励賞」を受賞。